

春に向ふ日ざし明るき 潦にわたずみ にセグロセキレイ一羽遊べる

(R)

春告げ鳥、春告げ草、春告げ魚・・・

春告げ鳥は鶯(別名歌詠み鳥)。鶯は、良い声ですが、姿は小ぶりで茶褐色の地味な小鳥です。梅の木に鶯がとまるのは珍しく、春告げ草と云われる梅と春告げ鳥と一緒にすることで、春の訪れを一層盛り上げるといふようです。

以前、旧亀井田中学校(現北小学校)の庭の低木の梅の木にたぶん鶯を見たことがあります。小さめの褐色の小鳥は、枝を跳び回り臆病そうでした。鳴き声は下手で、鶯とは思えないほど。それでも何千回、何万回と鳴いて「法、法華経」(聞きなし)と美しい声になっていきます。

春告げ魚は鯡。この辺りでは、生の物をカド、干したものをニシンと呼びます。大石田の昔を知っている方からうかがった話。「おらだの小さい頃、春先になつど最上川ば、ニシンつけだ舟が旗立ててのぼつてきたもんだ。ほの旗見つけると、嬉しくて手を振り走って行って、船曳き道で船曳き手伝うんだ。子どもでも一生懸命やると、駄賃にニシンが貰えた。ニシンの身を皮から剥して食べた。油ののったニシンのおいしいごど。あんなにおいしい食べ物はない。今でも一番の味だ。」と。

山菜汁に入れたり、独活やわらび、筍と一緒に煮物にしたり、昆布巻きにしたり、生でお雛様にあげたり、焼いたり、煮たりして食べ、今でも春の大石田には欠かせない郷土料理です。

・・・

土脈潤い起こる(どみやくうるおいおこる)

2月19日～2月23日頃

小学生の頃、6年生送る会が地区毎に実施されていました。6年間ずつとめんどうをみてくれた卒業生を在校生が歌・踊り・芝居を披露して送ります。親や先生も関係なく本当に子供達だけの行事でありました。塾もテレビもなく、こんもりとした雪の中、精一杯の練習を重ねていました。(と)

霞始めて靄く(かすみはじめてたなびく)

2月24日～2月28日頃

この時期、夜冷えると明日はかた雪かなと期待しました。放射冷却により早朝から晴れ、登校時にはかた雪になるのでした。田んぼは一面の銀世界。長靴の底から伝わる固いザクツザクツと確かな感触が快い。なにより田んぼの上を直線で歩いて近道できるのですからワクワクでした。(み)

草木萌え動く(そうもくもえうごく)

3月1日～3月4日頃

堅雪になると田圃の中央に穴を掘り、その穴に堆肥(方言で「こい」)を運ぶ「こい曳き」が始まる。橇の上に箱等を組み、堆肥を山積みにして人力で曳く。子供達は後押し役だ。同じ場所に同じ時期にする作業なので、橇が列になったり、擦れ違う時、お互いにかからかったりとお祭りだ。(海藤忠男)



2015.3 図書室より大石田小学校の方角

読書会だより ⑭

大石田の雨水のころ

七十二候より

大石田町立図書館

陽光が戻って来て、雪がどんどん消えるようになりまし。道幅は広がり、道端の雪は地層のようになり、土色に染まっていきます。雪が解け、水蒸気となり、薄曇りのような空からは雨が降り、また積雪を融かします。三寒四温を繰り返して、春の装いを呈してきました。雪解けで最上川は水位を上げ、冬の間雪帽子を被っていた川原の波けしも、つがいの水鳥も姿を見なくなりました。